

撮影別患者皮膚表面線量グラフ

(各撮影プロトコルごとに装置が算出してRISに記録されている撮影した患者の皮膚表面線量を集計しグラフ化したもの)

※実際にどれだけの線量を患者に与えているかの目安

診断参考レベルは標準体型の患者で設定されているため、体型の大きい患者で超える分には問題は無い。

2021年はDRLs2020に基づき集計を行った。胸部正面100kV未満(出張撮影)は、現時点で線量記録ができないため、各装置の測定結果をグラフ化したものを載せた。

2021年度集計結果について

すべての撮影項目において中央値はDRLsよりも低い数値となっているが、75パーセンタイルはDRLs値を超えている撮影項目があるため今後も線量の適正化を進めていく必要がある。

DRLs2020より追加された胸部正面100kV未満(出張撮影)は、2021年に装置間の出力の適正化のためプリセット条件を変更したため、全体的に線量が下がり、全ての装置のプリセット条件でDRLsを下回る結果となった。幼児胸部についてはDRLs2020から5歳のための集計となったため、2020年までの(2～5歳)で行った集計結果よりも75%値が高くなっているが中央値では大きな変化はなかった。

胸部撮影の線量が全体的に下降している。各撮影室のFPD化が進んでいる影響だと考えられる。

プロトコル名

頭部正面

オレンジの線: 診断参考レベル

線の上縁: 集計結果の最大

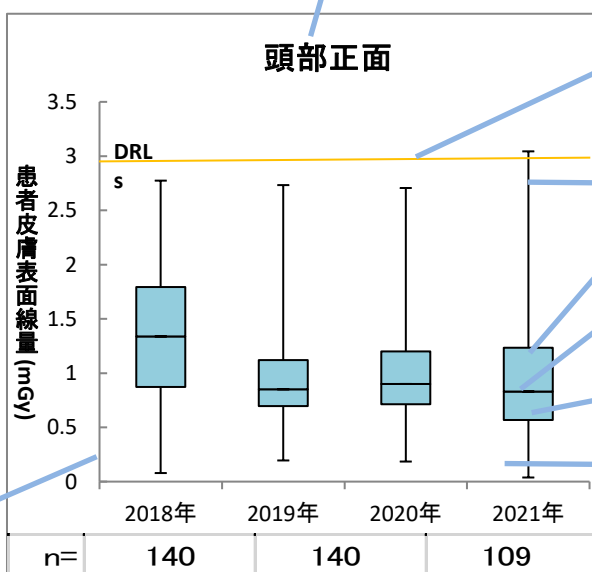
箱の上縁: 集計結果の75%

箱の中の線: 集計結果の中央

箱の下縁: 集計結果の25%

線の下縁: 集計結果の最小

縦軸: 当該部位における患者皮膚表面線量(mGy)



n: 集計に用いたデータ数

